

八万南小学校で河川環境学習を開催しました。

八万南小学校4年生の児童を対象に、園瀬川にて河川環境学習を行いました。園瀬川の水や生活排水などの水質検査、透視度検査を体験し、また川に入って底生生物を捕まえる生物調査を行い、川をきれいにすることの大切さなどを学びました。

【実施概要】

日 時：平成24年7月6日（金）9：00～11：00

場 所：園瀬川（文化の森橋周辺）

参加者：八万南小学校 4年生	89名
徳島県 河川振興課	6名
フジタ建設コンサルタント	6名

内 容：1 水の汚れの原因（水質実験：透視度、COD パックテスト）
2 底生生物調査

【活動状況】

○「水の汚れの原因」水質実験（COD パックテスト、透視度測定）

園瀬川の水と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、水道水に比べ、園瀬川の水は透視度が低いことがわかりました。

次に、COD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。園瀬川と水道水のCODを測定した結果、水道水と園瀬川のCODはほぼ同じ値になりました。これについて、この日使用した水道水はペットボトルに入れて運んだため、ペットボトルの洗浄が不十分であったことが影響したと考えられました。

また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも10～100mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。



○底生生物調査

はじめに、川に入る際の注意事項や底生生物の捕り方などを説明しました。



川に入り、みんな思い思いの場所で、いろいろな道具を使って底生生物や魚を捕獲しました。

捕獲した底生生物や魚の名前を調べ、生物の種類から園瀬川の水質を判定しました。カゲロウなどの底生生物のほかに、エビやカニなども多く生息していることが分かり、きれい、もしくは、ややきれいな水であるということがわかりました。

